

年頭のご挨拶

新年に際しましてご挨拶申し上げます。

旧年中は、当法人の賛助会員の皆様をはじめ、多くの関係各位の皆様にご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

昨年3月11日には、想像を絶する大地震が東北地方を中心に襲いかかり、その結果多くの人々の尊い命と日本の歴史・文化を踏み躪ってしまう大きな傷跡を残すこととなりました。

被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

しかし我々は今こそ、知恵と努力と勇気を結集して、復興・復旧の為にあらゆる努力を惜しまず金融リテールビジネスに邁進しようではありませんか！！

昨年12月2日に日本銀行主催で行われた金融高度化セミナーにおいて、「ABLを活用するためのリスク管理」が発表されました。勿論、同年の6月に発表された成長支援貸出制度（成長支援基盤強化を支援するための資金供給）をいかに活用するかという前提はあるものの、このセミナーで注目を浴びたことは、「企業実態を把握し商流をつかむ」このことは、「企業の事業再生にも貢献」できる。つまり「実数管理を伴ったABLを推進することで審査のリスク管理」にもつながることだと力説されました。

弊法人は、5有余年の年月をかけて動産評価のあるべき姿を追求し、正しい知識をもって普及すべく推進して参りましたが、まさに今回の日本銀行主催のセミナーにより大きな後押しをいただく結果となりました。法人設立以来一貫した動産評価の考え方は、**担保の設定でもなければ、融資金額の決定でもなく「動産評価は企業実態の把握」**であると申し上げてきました。今回のセミナーで、この事が証明されたことにより、大きな自信となった反面、逆に多大な責任をも痛感することとなりました。

本年度の大きな課題は、今にも増してより多くの金融機関の皆様へ、正しいABLを普及する事が弊法人に課せられた任務であると自負しております。つきましては本年4月を第1回目として「（仮称）動産評価アドバイザー養成認定講座」を開催したいと考えています。

本養成認定講座の修了者を対象として「動産評価アドバイザー認定試験」を実施し、その合格者にはNPO法人日本動産鑑定より『動産評価アドバイザー』の資格授与が予定されています。

本講座は、金融機関が中小企業の実態を把握し、中小企業が求めるニーズに応えるべく動産評価「目利き力」を高めることを目的とし、動産担保の評価というよりは、むしろ担保主義からの脱却のために必要な商品在庫を把握するところにあります。また、金融機関が能動的に顧客のことを知り、顧客ニーズに合致しての金融サービスの提供を促すための養成認定講座であります。

受講対象者は金融機関の法人営業、融資審査及び企業支援、事業再生の担当者のみならず、中小企業診断士、不動産鑑定士、及び会計士を始めとする多くの士業の皆様等、幅広い担当者を対象としておりますので本年度の弊法人の活動に是非ともご期待をしていただきたいと思います。

最後になりましたが、平成24年が賛助会員の皆様と関係各位の皆様にとりまして、良い年でありますようお願い申し上げます。私の新年のご挨拶とさせていただきます。

NPO 法人 日本動産鑑定
理事長 久保田 清